

特発性心室細動患者におけるベクトル合成 187チャンネル高分解能心電計を用いたリスクの層別化に関する検討

大久保公恵 渡辺一郎 奥村恭男 園田和正
佐々木直子 古川力丈 永嶋孝一 芦野園子
小船雅義 中井俊子 國本 聡 平山篤志

【背景】J波は心電図上しばしば見られる所見であり、その予後は比較的良好と考えられてきた。しかしながら、近年、特発性心室細動(IVF)症例においてJ波の存在が致死性不整脈の原因となともいわれており、近年QRS波後方に見られるスラー、ノッチなどの早期再分極波あるいはJ波と心室細動(VF)、突然死との関連が注目されている。【目的】ベクトル合成 187チャンネル高分解能心電計(DREAM)を用いてIVF患者において心室再分極および脱分極諸指標を測定し、リスクの層別化が可能か否かを検討する。【方法】対象はDREAMを施行したVFの既往のあるJ波を有するIVF患者8例(J群)、不整脈発作のない早期再分極症例4例(Cont.群)で全例男性。平均年齢は 45 ± 19 歳。J波の部位は下壁8例、側壁0、両部位4例。【結果】加算平均心電図(LP)はJ群8例中7例、Cont.群4例中3例で陽性($p=0.58$)。QTcはJ群 366.0 ± 54.7 msec, Cont.群は 421.8 ± 26.5 msec ($p=0.59$)であった。心室筋の再分極のばらつきを示すRTcはJ群 71.6 ± 17.3 msec, Cont.群 71.3 ± 24.3 msec ($p=0.8$)、貫壁性再分極のばらつきを示すT peak-endはJ群 46.3 ± 20.1 msec, Cont.群 35.8 ± 10.2 ($p=0.4$)と、いずれも有意差は認めなかった。【結語】J波を有する症例におけるVF発症の予測は、従来のコンピューター計測に基づく脱分極、再分極指標の評価では困難と思われる。

Keywords

- 特発性心室細動
- J波
- ベクトル合成 187チャンネル高分解能心電計

日本大学医学部附属板橋病院循環器内科
(〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町 30-1)

Study of Risk Stratification Using Vector Synthesis 187 Channel High Differentiation Electrocardiograph for Idiopathic Ventricular Fibrillation Patients

Kimie Ohkubo, Ichiro Watanabe, Yasuo Okumura, Kazumasa Sonoda, Naoko Sasaki, Rikitake Kogawa, Koichi Nagashima, Sonoko Ashino, Masayoshi Kofune, Toshiko Nakai, Satoshi Kunimoto, Atsushi Hitayama